

躍動121

ニューノーマルを  
生きる成長企業群

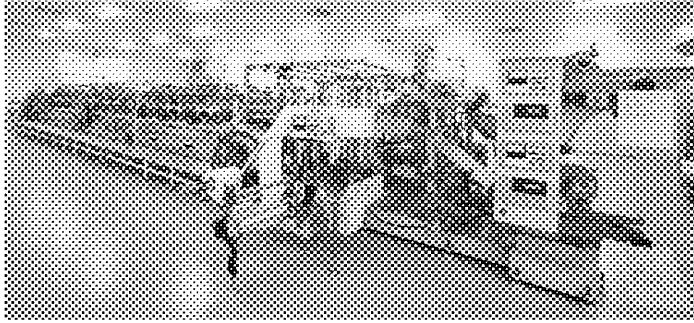
ネクスタ

半導体・医療機器向け軟包材

ネクスタ（大阪市城東区、鳥山浩司社長）は、米袋などに使用される重包材の加工で創業し、現在の主力は食品のテイクアウト用紙袋などの軽包材。ほかにも半導体・電子部品やメデイカル用途に使用する軟包材、ゴミを捨てるために使う水切り袋なども手がける。さまざまな業界に商品代に参入した。病院内で医療機器を滅菌する業112年で経常赤字がないとみられるほど、よりクリーン度が高い製品の需要を見込み2009年にクリーンルームを集約して増設。空気清浄度をクラス1000レベルに保ち、製造を続ける。医療機器向けの医療用滅菌包材は需要が増加しており、23年に袋を製造する製袋機を1台増設した。11月ごろにも1台増設する計画だ。今後も伸びる市場と見て、売り上げ拡大に力を入れる。

主力製品の紙袋は、テイクアウト用素材が国内の人口減の影響などで減少傾向が続くと見込む。ただ、電子商取引（EC）の増加に伴い、宅配関連で使われる紙の宅配袋の需要は広がっており、機械を更新・新設した。コメ用などの重包材は別素材が使われることが増えており、衛生管理に特化するなどし

滅菌用、製造設備を拡充



ネクスタで稼働する大型力セツト製袋機

場取得済み。今後は「千葉工場（千葉県野田市）も25年3月までに取得したい」（鳥山社長）と意気込む。

また、消費者向け製品も注力分野の一つだ。紙袋の製造ノウハウを生かして開発した紙製の水切り袋は、販路も紙袋も食品を入れ身が見えないゴミ袋が「容器の一つ」（鳥山社長）と捉え、食品安さを促した。「キャラ全の国際規格「FSSC22000」の取得促進活動もする」（同）に取り組んでおり、グと力を入れる。新型コロナウイルス 新型コロナウイルス

コロナ禍では家庭向け好調

【大阪中小企業投資育成 事業ソリューション部・荻野直人次長】「とにかくやってみよう」を行動指針に掲げ、家庭用から食品、医療、電子部品、緑化・園芸分野まで、ニーズを先取りした、思わず新しい商品を送り出してきた。長年、国際非政府組織（NGO）の環境保全活動を支援し、社会貢献にも精力的に取り組んでいる。

**投資会社の目線**

感染症の流行時は内食所が多いほか、グルー需要が増え、排水口全体で9工場保有しや、生ゴミなどを捨てている。配属後は「（事三角コーナーに使う業所内の）縦関係のつ水切り袋など「家庭向」なものが強くなつてしけ用品は非常に伸び「まう」（同）。その「た」（同）。これによめ、2年目の社員を集り、コロナ禍でも経常める機会を作り、横の赤字を免れることがでつながりを増やしてきた。水切り袋は排水「縦横両方で風通しを汚染に役立つとして市良くしていく」（同）場を開拓し、シェアもことで、社内の雰囲気高い。

成長を続けるため、次世代の育成にも取り組む。ネクスタは営業（大阪・岩崎左恵）（木曜日に掲載）